

110 学年度第一学期 Eurasia 基金会国際講座

「アジア共同体：東アジア学の構築と変容」系列講次(7)

講題：韓国語と韓国文化

中国文化大学 110 学年度 Eurasia 基金会国際講座第 7 回は、本校韓文系の金善孝教授による「韓国語と韓国文化」である。韓流は台湾の若者に大人気で、そのため韓国語を学ぶ人も大幅に増えている。金教授は本講座で韓国語の歴史と言語学上の特徴についてわかりやすく紹介してくれた。金教授にとって日本語は最も学びやすい言語であるという。それはなぜか？ 韓国語の語構造から見て、日本語と韓国語はともに SOV 構造であり、同じ表音文字で、他に中国語の表意文字もあるからである。それで日文系の学生が韓国語を学ぼうとすれば、容易に始められる。他方、韓文系の学生もまた日本語を比較的たやすく学べる。

韓国語の歴史

漢字が入ってきたのは西暦 108 年と推測され、韓国では長く漢字が使用されていた。朝鮮時代の君主世宗大王は『訓民正音』を通して、学者たちと共同で創造したハングル文字を公にした。それ以前の韓国人は漢字で表記していた。現代の韓国語に漢字はすでに見られず、ハングル文字（朝鮮文字）に改められたが、この韓国語表記は世宗大王と集賢殿の学者たちが共同で創出した。

ハングル文字

金教授は講座の中で、現代の韓国語で用いる文字、いわゆるハングル文字（朝鮮文字）の創出は 1443 年、正式使用の公布は 1446 年であると述べた。今日のハングル文字は「子音＋母音」から成り、基本字音は 17 個、母音 11 個、計 28 個である（現在は 24 個使用されている）。

韓国文化と韓国語

(1) 韓国語と年齢の相関性

韓国語と韓国人の文化は深く結びついており、とりわけ対象が異なれば言語表現も異なる。例えば、挨拶の言葉を先輩／同輩／後輩といった異なる対象に使う時、その他の言語では一般的に大きな違いはないが、韓国語でははっきりした基準がある。そのため韓国人は初対面の際、常に「おいくつですか？」と尋ねる。こうした比較的プライバシーに関する問題は、もし韓国文化を理解していなければ、少なからず誤解を招く。したがって言語学習の際には、同時に

文化および礼儀面を重視することが必要である。

(2) 韓国人の食事マナー

金教授は飲食文化のマナーから韓国人の生活習慣を明らかにした。例えば、以下の四つの習慣は韓国人のテーブルマナーで非常に重視される。

A：年長者が最初に匙を取る。B：匙と箸は右側に置く。C：同時に匙と箸を使わない。D：音を立てて食べない。以上の四つの習慣の他に、食事中はくしゃみをしてはいけないし、お椀を持つのもいけない。韓国人が異なる相手と酒を飲む時には、厳密な階級区分がある。こうしたマナーは国が異なれば飲食文化も異なることの現われであり、言語を学ぶ時には同時にその国の文化を学び、理解しなければならない。

(3) 韓国の食べ物とキムチ文化

金教授によると、ビビンバは一般の家庭であまり食べない。レストランで見るとビビンバは健康食として食べられる。「韓定食」の特色として健康を主眼に、多種多彩な野菜を重視する。比較的特別なのは、韓国人が誕生日にワカメを食べることである。それで韓国人が「ワカメスープを飲みましたか？」と尋ねても、外国人にはまったく理解できないが、韓国人の文化を理解していれば、なぜワカメスープと誕生日が結びついているのかわかるのである。

韓国キムチは地域によってさまざまである。もともとは沈菜といった。かつては冬になると比較的食べ物が不足したため、白菜をキムチにして食されるようになった。やがて各地に特色あるキムチが作られていった。教授によると、韓国の一般家庭には冷蔵庫が二台あり、一台は食材用で、もう一台がキムチ専用だという。LGが1984年にキムチ用冷蔵庫を発売して以来、これまでに韓国の家庭で広く用いられるようになった。

学生の質問

講座の後、学生は特に漢字のことで次のように質問した。15世紀に韓国でも漢字を使用し、日本と同じだったが、なぜ今は使わないのか？ 漢字を使わないことで、どのような影響があるのか？ これに対して金教授はこう答えた。現在は漢字を使っていないけれど、辞書を見れば、ほとんどすべての字に漢字がある。21世紀の現在、漢字を使用することもよいと考える人もいる。金教授個人の考えでは、韓国語で漢字を用いるのもわるくない、なぜなら中国語と日本語の学習につながるからだ。

(Web サイト: <https://eurasia.pccu.edu.tw/index.php>)

(撰稿: 黄金堂 日文系副教授)

(日本語訳: 塚本善也 日文系副教授)